

BLACK E.P./WONDER-K

All songs written by Wonder-K

01. Alive

静寂が包んだ街の片隅で
僕は星を探している そして
淡い夜の空に違うリズムの
僕らの呼吸が染みていく

命の瞬き
鳴り止まないメロディー
僕らここにいる
それだけが確かなこと

錆び付いた秒針が
全てを忘れても
僕らここにいる
それだけが確かなこと
それだけなんだ

悲しい過去とか 不安な未来とか
今はどうだっていいんだ そして
今僕らの目の前にあるものはただ
この瞬間だけなんだよ

命の瞬き
鳴り止まないメロディー
僕らここにいる
それだけが確かなこと

いつか出会えること
それすらも忘れても
僕らここにいる
それだけが確かなこと
それだけなんだ

それだけなんだ
いつの日も変わりほしくないよ

命の瞬き
鳴り止まないメロディー
僕らここにいる
それだけが確かなこと

錆び付いた秒針が
全てを忘れても
僕らここにいる
それだけが確かなこと
それだけなんだ

02. Let Down

嘘偽りで塗りたくって
もとの形はもう分からない
そんな歪な自分のままで
今日を歩くんだ

世界は僕に「正しさ」
「自分らしさ」なんてものを押し付け
そして僕のことを
深い海へ沈めていく

少しでも立ち止まって
弱音を零して泣けたならいいのにな…
それすらも許されほしくない
今日をやり過ごしていく それで精一杯だ

望んだものにはいつもきつと
たどり着けぬまま
何もない景色の果て 僕は
何を信じればいいのか
紡ぎ出した言葉がいつしか
朽ち果てて消える前に
どうか 僕に気付いてよ

自分が嫌い
でも潔く嫌いになり切れるわけじゃなくて
行き場のない憎悪を
一人抱え込んでいた

残酷なほどに深く長い夜が
このまま僕らのことを
何処かへ連れ去ってくれれば
なんて思うんだ

目の前でちらつかされる
いくつもの希望に弄ばれてきた
それでも僕は悲しいほどに
また同じ過ちを繰り返してゆく

望んだものにはいつもきつと
たどり着けぬまま
何もない景色の果て 僕は
何を信じればいいのか
紡ぎ出した言葉がいつしか
朽ち果てて消える前に
どうか 僕を連れ出して

ただ 失望を抱えゆっくりと朽ちていく
どうか 明日こそは微笑みを…

望んだものにはいつもきつと
たどり着けぬまま
何もない景色の果て 僕は
何を信じればいいのか
紡ぎ出した言葉がいつしか
朽ち果てて消える前に
どうか 僕に気付いてよ

望んだものにはいつもきつと
たどり着けぬまま
何もない景色の果て 僕は
何処へ行けばいいのか
紡ぎ出した言葉がいつしか
朽ち果てて消える前に
どうか 僕を連れ出して

03. Planet

溢れるような日々を重ねて
掻き消されていく幾つかの想いを
見送るように 星の片隅
僕は呼吸をしていたんだ

何てことのない毎日がずっと
ずっと続くとそう思っていた
生まれ落ちたあの頃のまま
綺麗でいれる気がしたんだ

もう一度だけ
君の隣にいさせて欲しいよ
もう少しだけ
君と笑っていたかった…

僕に残った大きな痛み
忘れることはできやしないから
せめて僕は穢さぬように
ぎゅっと抱きしめているんだ

過ごした日々の匂いと記憶が
染み付いている星の片隅で
どうやって僕は歩けばいいの
どうすれば笑えるだろうか

透明な悲しみが僕らの
果てない世界をそっと揺らしていく
ただ君の隣にいられないこと
それだけが全てで何もないよ

透明な悲しみが僕らの
果てない世界をそっと揺らしていく
ただ君の隣にいられないこと
それだけが全てで何もないよ もう
ああ 哀しいほど遠い空に
今日が溶けていく

透明な悲しみが僕らの
果てない世界をそっと揺らしていく
もうあの頃には戻れないこと
それだけが全てで何もないよ もう
ああ 哀しいほど遠い空に
今日が溶けていく

透明な悲しみが僕らの
果てない世界をそっと揺らしていく
もうあの頃には戻れないこと
それだけが全てで何もないよ もう
ああ 哀しいほど遠い空に
今日が溶けていく

04. フェスティバル

突然に始まった特別な時間に
心はもうどうしようもなく弾んだ
どこからともなくただ降って湧いた気持ちが
僕の視界をそっと塗り替えてゆくんだ

あまりに純粹すぎた気持ちは
現実に踏み潰されてしまって
「特別な時間」など結局は
終わってしまったけれど…

モノクロの世界が色づいてく
ただそんな瞬間が訪れて
溢れる輝きの中で僕は
君のことを見つけたよ

モノクロの世界が色づいてく
ただそんな瞬間を忘れない
溢れる輝きの中で僕は
確かに君を見たんだ

今までならばきつと馬鹿げたことだって
鼻で笑うような青臭さも
今の僕にはまるで笑えなくなっていた
僕の眼には君だけが映っていたんだ

紛れもなくその場所に君はいたよ

モノクロの世界が色づいてく
ただそんな不思議が紡がれて
溢れる輝きの中で僕は
君に恋をしてたんだ

05. Sink

どこまで行ったとしたって変わらないまま
ただ繰り返される毎日に沈んでゆく
光さえ届かないような深い海で
淡い憂鬱だけ そっと漂っている

このまま目を閉じて眠りにつき
塵となり消えてしまえたら…
だけど僕はまだ忘れられないんだ
いつか見た強い光を

明日へ沈んでいだけ
苦しくて息が出来ない
どうか 僕に救いを
一筋の光を探している

嫌いなものは遠ざけて拒んできたなら
とうとう僕の視界には何もなくなった
光さえ届かないような深い海で
どんな飾り立てた言葉も意味を失くす

このまま息を止めて眠りにつき
全て終わらせてしまえたら…
だけど僕はまだ求めようとする
いつかの手の温もりを

明日へ沈んでいだけ
全身が凍えていくんだ
どうか 僕に救いを
一筋の光を探している

明日へ沈んでいだけ
苦しくて息が出来ない
どうか 僕に救いを
いつの日か ああ…

明日へ沈んでいだけ
苦しくて息が出来ない
けれど 僕は今でも
一筋の光を探している

06. Blackout(Instrumental)